

令和 8 年度戦略産業人材確保支援事業（働き方改革の推進支援）委託業務に係る 企画提案指示書

第 1 委託業務名

令和 8 年度戦略産業人材確保支援事業（働き方改革の推進支援）委託業務

第 2 委託業務の目的

人手不足が深刻化される中、安心して働ける就業環境の整備を進める必要があることから、職場環境の改善による「働き方改革」の取り組みを推進するため、企業内においてその中核となる人材を育成することとともに、専門家派遣による職場環境整備等の伴走支援による、道内企業における「働き方改革」の普及を通じて、良質で安定的な正社員就職者等の雇用の創出・定着（確保・拡大等）を図る。

第 3 委託業務の内容

1 セミナー及び個別相談の実施

中小企業等（道内に事業所を有し従業員 5 名以上）の人事労務担当者（実務担当者）等を対象に、企業における働き方改革の取組を推進するためのセミナー及び個別相談を実施し、「働き方改革」の取組意欲はあるものの実行できていない企業を抽出すること。

2 伴走支援の実施

上記 1 の抽出結果を基に、社会保険労務士等の専門家が、個別訪問などにより、企業における職場環境整備に関する支援を実施する。

ア 「働き方改革」による職場環境整備に向けた施策及び職場環境改善に関する課題に対する解決策を提示し、解決に向けたサポートを行う。

イ 支援事業者数は 10 社以上、1 社あたりの支援回数は最大で 4 回までとする。

3 その他

本事業は「地域活性化雇用創造プロジェクト事業」に基づく委託業務であることから、国の示す「令和 8 年度地域活性化雇用創造プロジェクト募集要項」等の関係規定を踏まえ実施するとともに、本事業による良質な雇用による正社員雇用の創出の実績が求められることに留意すること。

また、当該プロジェクト事業について、11 月上旬以降を目途に本事業参加者を対象としたアンケート調査（別途指定）を実施することから、アンケートの配付、回収及び集計を行うこと。

4 業務報告書の作成

上記 1 及び 2 の業務の成果、課題等を取りまとめた報告書等を作成すること。

(1) 令和 8 年(2026 年)11 月末

中間報告書（A 4 版） 1 部及び電子データ

(2) 令和 9 年(2027 年)2 月末

ア 最終報告書（A 4 版） 1 部及び電子データ

イ 改善事例集【ロールモデル】（A 4 版） 1 部及び電子データ

※上記 2 の伴走支援の実施により改善等が図られた事例をまとめたもの。なお、本事例集は事業成果として、道ホームページ等で公開可能なものとする。

第 4 提案に当たっての留意事項

1 アウトプット目標

支援事業者数^(注 1) 70 社以上（令和 8 年(2026 年)11 月末までに 56 社以上支援すること。）

2 アウトカム目標

良質な雇用による正社員就職者等^(注 2) 14 名以上（令和 8 年(2026 年)11 月末までに 10 名以上正
規化されるようにすること。）

(注 1) 支援事業者数

セミナー参加及び個別相談実施事業者数並びに伴走支援事業者数の合計とする。ただし、伴走支援事業者数は 10 社以上とする。

(注2) 良質な雇用による正社員就職者等

第3の1又は2の支援を受けたことにより、新たに雇用された又は処遇改善が図られた者とする。

具体的には、次のアに該当する者であって、支援の結果、次のイの基準を新たに満たすこととなった者の数とする。

ただし、支援開始後に事業主都合による解雇等を行った事業主に雇用された者の数は除くものとする。

また、複数の支援を受けた対象者に係るアウトカムの重複は認めないものとする。

ア アウトカムの対象となる者

支援を受けた事業主に正社員（次の a から d までのいずれも満たす者に限る。以下同じ。）として雇用された者（正社員以外の雇用形態から正社員へ転換した者を含む。以下同じ。）

a 期間の定めのない労働契約を締結している労働者であること。

b 派遣労働者（労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律第2条第2号に定める「派遣労働者」をいう。以下同じ。）として雇用されている者でないこと。

c 所定労働時間が同一の事業主に雇用される通常の労働者の所定労働時間と同じ労働者であること（労働協約又は就業規則に規定する通常の労働者の所定労働時間が明確ではない場合、他の通常の労働者と比べて所定労働時間が同等であること）。

ただし、他の通常の労働者と比べて所定労働時間が同等でない者であっても、次の(a)から(d)までのいずれかに該当する者については含むものとする。

(a) 短時間正社員（正規雇用として雇用されている労働者であって、同一の事業主に雇用される他の正規雇用の労働者と比べ1週間の所定労働時間が短い者をいう。）

(b) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（平成3年法律第76号）第23条に基づく所定労働時間の短縮措置等を利用する労働者

(c) 障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）第36条の2から第36条の4に基づく合理的配慮として所定労働時間の短縮等により就業する障害者

(d) 労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「基準法」という。）第32条の3に基づくフレックスタイム制度を利用する労働者

d 同一の事業主に雇用される通常の労働者に適用される就業規則等に規定する賃金の算定方法及び支給形態、賞与、退職金、休日、定期的な昇給や昇格の有無等の労働条件について長期雇用を前提とした待遇（正社員待遇）が適用されている労働者であること。

イ 良質な雇用の基準

次の(ア)及び(イ)を満たすことをいう。なお、以下の「所定内給与額」とは、きまって支給する現金給与額のうち、超過労働給与額を差し引いた額をいい、賞与は含まないものとする。

(ア) 賃金要件（a又はbを満たすこと）

a 就労期間における所定内給与額の1ヶ月当たりの平均額が210,800円以上であること。

b 処遇改善前の月所定内給与額が5%以上上昇していること。

(イ) 月平均所定外労働時間が20時間以下であること。

＜所定内給与＞

超過労働給与額を除く労働契約、労働協約あるいは事業所の就業規則などによってあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給された現金給与額（所得税、社会保険料などを控除する前の額）とする。

なお、超過労働給与額は、次の１から５のいずれかに該当する給与の額とする。

- １ 時間外勤務手当（所定労働日における所定労働時間外労働に対して支給される給与）
- ２ 深夜勤務手当（深夜の勤務に対して支給される給与）
- ３ 休日出勤手当（所定休日の勤務に対して支給される給与）
- ４ 宿日直手当（本来の職務外としての宿日直勤務に対して支給される給与）
- ５ 交替手当（臨時に交替制勤務の早番あるいは後番に対して支給される交替勤務給など、労働時間の位置により支給される給与）

第５ 提案事項

１ 全体

- （１）アウトプット目標に留意の上、第３の１及び２を達成出来るよう提案すること。特に、支援事業者数の目標を達成するための集客の取組、工夫（セミナー参加企業の支援ニーズを掘り起こし、伴走支援につなげるための取組イメージ）について、提案すること。
- （２）アウトカム目標に留意の上、第３の１及び２を達成出来るよう提案すること。特に、「働き方改革」の推進による良質な雇用の創出のための取組、工夫について、提案すること。
- （３）本事業の実施にあたり、依頼を予定する専門家（社会保険労務士等）の氏名や資格、実績について、可能であれば記載して提案すること。
- （４）具体的かつ実現可能な業務処理スケジュールを提案すること。
- （５）類似事業の受託実績を示すこと。

２ セミナー及び個別相談

働き方改革の取組を全道的に普及させるため、セミナー及び個別相談の内容等は次のとおりとする。なお、セミナーと個別相談はセットで行うものとする。

- （１）セミナー及び個別相談の実施場所については、札幌会場、地方会場（道内４地域以上）とする。また、会場の選定にあたっては参加者の利便性に考慮すること。なお、実施方法は提案事項（対面、オンライン、対面＋オンライン併用など）とする。
- （２）セミナーのテーマ及び内容については提案事項とするが、下記の基本事項を網羅し、実施後、参加者が自社に戻った際に「働き方改革」の推進に取り組める内容に加え、参加企業における職場環境改善につながる内容とし、良質な雇用の創出に資するものを提案すること。なお、基本セミナー及び個別テーマセミナーの開催地域、回数は提案事項とする。

ア 基本セミナー

働き方改革の必要性和メリット、就業規則の必要性や助成金の活用等の基本的事項について、働き方改革に未着手の企業等が参加しやすいよう基礎的な内容とすること。また、参加者が主体的に参加できるもの（例えば、事前アンケートの実施による参加者の課題意識の把握やワークショップ形式の活用）とし、自社の課題を認識することができる内容を提案すること。

イ 個別テーマセミナー

働き方改革のうち、多様な働き方や総労働時間の縮減、仕事と家庭の両立など、課題・テーマ別の内容（一度に複数テーマを設定しても可）とし、参加企業の自社が抱える課題の解決に寄与する内容とすること。また、参加者が主体的に参加できるもの（例えば、事前アンケートの実施による参加者の課題意識の把握やワークショップ形式の活用）とし、参加企業内で取組の共有等が図られるものを提案すること。なお、「仕事と家庭（育児・介護）の両立支援」は重点テーマとして、全ての個別テーマセミナー取り上げること。

- (3) セミナー開催後の個別相談の実施方法は提案事項（対面、非対面を問わない）とするが、参加企業における課題の顕在化及び支援ニーズの把握ができ、伴走支援対象企業の抽出につながる効果的な方法を提案すること。
- (4) セミナーの周知及び参加募集について、より多くの参加を募るための効果的な方法を提案すること。また、セミナーの名称等について抽象的な記載は避け、企業の参加意欲を高めるものとする。

3 伴走支援の実施

- (1) 職場環境改善に向けて、専門家が提示する支援の内容（就業規則の整備や、「働き方改革」に関する補助金の活用など取り組みイメージ）を提案すること。
- (2) 職場環境改善に向けて、専門家による伴走支援のプロセス（1 事業者につき最大 4 回としていることから、各回の支援内容など）を提案すること。
- (3) 業種によって支援方法を変える場合などは、その支援方法を提案すること。

4 「北海道働き方改革推進企業認定制度」及び「障がい者雇用」に関する事項

- (1) 道が実施している「北海道働き方改革推進企業認定制度」の認定及び「障がい者就労支援企業認証制度」の認証を受けている場合は、該当の認定書（写し）や認証書（写し）を提出すること。
- (2) コンソーシアムの場合は、各構成員に係る（1）の認定書（写し）や認定証（写し）を提出すること。

5 「パートナーシップ構築宣言」に関する事項

- (1) 国が実施している、「パートナーシップ構築宣言」を宣言している場合は、該当の宣言書を提出すること。
- (2) コンソーシアムの場合は、各構成員に係る（1）の宣言書を提出すること。

第6 実績報告書の提出

受託者は、事業終了後、次のとおり速やかに実績報告書及び収支精算書に上記第3の4（2）の業務報告書を添付して提出すること。

製本1部（形態：A4判）及び電子データ

第7 企画提案者の参加資格要件

単体法人並びに複数法人による連合体（以下、「コンソーシアム」という。）であって、次の要件をすべて満たしていること。

- 1 単体法人で参加する場合は、道内に本店又は主たる事業所あるいは支店等の拠点を有するものであること。また、コンソーシアムで参加する場合は、道内に本店又は主たる事務所を有するものをその構成員に含むものであること。
- 2 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4第1項各号に掲げる者でないこと。
- 3 地方自治法施行令第167条の4第2項の規定により競争入札への参加を排除されている者でないこと。
- 4 北海道の競争入札参加資格者指名停止事務処理要領（平成4年9月11日付け局総第461号）第2条第1項の規定による指名の停止を受けていないこと。また、指名の停止を受けたが、既にその停止の期間を経過していること。
- 5 暴力団関係事業者等であることにより、道が行う競争入札等への参加を除外されていないこと。
- 6 暴力団関係事業者等でないこと。
- 7 次に掲げる税を滞納している者でないこと。
 - (1) 道税（個人道民税及び地方消費税を除く。）
 - (2) 本社が所在する都府県の事業税（道税の納税義務がある場合を除く。）
 - (3) 消費税及び地方消費税

- 8 次に掲げる届出の義務を履行していること（当該届出の義務がない場合を除く。）
- （１）健康保険法（大正 11 年法律第 70 号）第 48 条の規定による届出
 - （２）厚生年金保険法（昭和 29 年法律第 115 号）第 27 条の規定による届出
 - （３）雇用保険法（昭和 49 年法律第 116 号）第 7 条の規定による届出
- 9 コンソーシアムの構成員が単体の法人としても重複参加する者でないこと。また、コンソーシアムの構成員が他のコンソーシアムの構成員として重複参加する者でないこと。

第 8 審査基準

企画提案は、次の事項について審査し、総合的に判断する。

1 企画提案者の適格性

- （１）提案者の事業内容及び実績から見て受託能力があるか。
- （２）中小企業の就業環境の改善など働き方改革の推進に関して、相当程度の知見を持っており、また、これらの知見を踏まえた考え方のもと業務の提案がなされているか。
- （３）事業を円滑かつ確実に実施する体制、業務スケジュールが確保されているか。

2 企画提案内容の目的適合性及び業務遂行方法の妥当性

- （１）セミナーの開催について、地域・会場選定や実施時期、実施方法は適切か。
- （２）セミナーの周知及び参加募集について、効果的な集客を行うための工夫がなされているか。
- （３）セミナーのテーマ及び内容について、参加者の人材育成及び企業の職場環境整備につながる内容となっているか。
- （４）個別相談の実施について、実施方法は参加企業の課題・支援ニーズ把握ができる内容になっているか。また、伴走支援対象企業の抽出に効果的な内容になっているか。
- （５）伴走支援の実施について、実施時期や方法は適切か。
- （６）専門家を含めた支援の体制は、伴走支援の実施に効果的に対応できるものとなっているか。
- （７）アウトプット目標及びアウトカム目標を達成するため、効果的な集客のための工夫などがなされているか。

3 道施策との適合性

- （１）「北海道働き方改革推進企業認定制度」における 4 つの認定グレード（ゴールド認定、シルバー認定、ブロンズ認定、ホワイト認定）のいずれかに該当しているか。
- （２）「北海道働き方改革推進企業認定制度」における 3 つの認定グレード（ゴールド認定、シルバー認定、ブロンズ認定）のいずれかに該当し、同制度の評価基準にある「障がい者就労支援企業認証制度」の一定以上の認証ポイントを獲得しているか。
- （３）国が創設した「パートナーシップ構築宣言」を宣言しているか。

第 9 委託期間

契約締結日から令和 9 年（2027 年）2 月 26 日（金）まで

本事業は、国の補助事業の採択決定前の準備行為として行うものであり、国の採択の可否により、委託業務の実施の中止や業務の内容、委託期間等を変更するか、契約を行わない場合があります。

また、令和 8 年度北海道議会第一回定例会の議決前であるため、議決結果によっては、委託業務の内容及び積算上限額が変更する場合又は事業が中止になる場合があるのでご留意ください。

第 10 提案に当たっての留意事項

1 著作権の取扱い

本業務の遂行により生じた著作権（著作権法（明治 32 年法律第 39 号）第 27 条及び第 28 条に定められた権利を含む。）は、すべて北海道に帰属するものとし、第三者が権利を有する著作物を使用する場合には、著作権、肖像権等に厳重な注意を払い、当該著作物の使用に関して一切の手続きを行うこと。

2 個人情報の取扱い

本事業が取り扱う個人情報は、個人情報保護法（平成 15 年 5 月 30 日法律第 57 号）、北海道個

個人情報保護条例（平成 6 年 3 月 31 日条例第 2 号）及び事業者が個人情報を取り扱う際に遵守すべき指針（平成 6 年 9 月 6 日付け北海道知事あて北海道個人情報保護審査会答申第 1 号）等の個人情報保護制度に基づき、適正に取り扱うこと。

第 11 選定事業者数

1 者を選定する。

第 12 参加資格審査申請書の提出

本企画提案への参加を希望する者は、令和 8 年 3 月 17 日付け公告に定める日までに、次の書類を提出すること。なお、参加資格審査申請書提出後に当該公告に定める参加資格要件を満たさないことが明らかとなったときは、参加資格審査申請書の提出は無効とする。

1 提出書類

- (1) 参加資格審査申請書・・・別紙 1－1
- (2) 企業概要票・・・・・・・・別紙 1－2
- (3) 誓約書・・・・・・・・別紙 1－3
- (4) 添付書類

ア 参加資格審査申請する者が法人の場合は商業登記事項証明書又は法人の登記事項証明書

イ 参加資格審査申請する者がコンソーシアムの場合は、上記アの書類及びコンソーシアム協定書（別添様式）の写し

ウ 道税について滞納がないことの証明書

エ 本社が所在する都府県の事業税（道税の納税義務がある場合を除く。）に滞納がないことの証明書

オ 消費税及び地方消費税に滞納がないことの証明書

カ 健康保険・厚生年金保険の届出義務を履行している事実を証する書類（写し）
（以下に示した書類など、加入状況が確認できるものの写しを一つ添付してください。）
（ア）納入告知書
（イ）資格取得確認書及び標準報酬月額決定通知書
（ウ）適用通知書

キ 雇用保険の届出義務を履行している事実を証する書類（写し）
（以下に示した書類など、加入状況が確認できるものの写しを一つ添付してください。）
（ア）保険関係成立届
（イ）領収済通知書
（ウ）概算・確定保険料申告書（控）

ク 社会保険等適用除外申出書（別添様式）【健康保険、厚生年金保険及び雇用保険の加入義務がない場合のみ】

2 提出部数

1 部

3 提出期限

令和 8 年（2026 年）3 月 31 日（火） 17 時（必着）

4 提出場所

下記第 18 のとおり

5 提出方法

持参または郵送（簡易書留、書留のいずれか）とする。

第 13 企画提案書の提出

次のとおり必要な書類を提出すること。

1 提出書類

- (1) 企画提案書・・・・・・・・別紙 2
- (2) 企画提案の内容・・・A 4 サイズの任意様式（片面 30 枚以内）

- (3) 「北海道働き方改革推進企業認定制度の認定書」及び「障がい者就労支援企業認定制度の認定書」

※認定等を受けている場合のみ。未提出の場合は認定等を受けていないものとして取り扱います。

※コンソーシアムの場合は、各構成員からの提出が必要です。

2 提出部数

11 部

※1 部は提案者を記載したもの。残り 10 部は提案者名を記載しないもの

※上記 1 (3) は各 1 部

3 提出期限

令和 8 年 (2026 年) 4 月 8 日 (水) 17 時 (必着)

4 提出場所

下記第 18 のとおり

5 提出方法

持参または郵送 (簡易書留、書留のいずれか) とする。

第 14 企画提案書の作成方法

- 1 別紙 2 「令和 8 年度戦略産業人材確保支援事業 (働き方改革の推進支援) 業務企画提案書」を 1 ページ目とし、次のページに目次を付け、以降、企画提案の内容としてください。

なお、別紙 2 の「主な業務経歴」欄には国又は地方公共団体と契約を締結し、確実に履行した雇用対策に係る主な実績を記録し、それを示す書類 (契約書・報告書等 (必須)) の写しを 1 部提出してください。

また、「業務処理体制」欄には本業務に関わる方全てについて必要な事項を記載してください。

- 2 企画提案書の様式は特に定めませんが、用紙の大きさは日本工業規格 A 4 判にしてください。
- 3 文章を補完するためにイラストや図表などを使用してもかまいませんが、社名やロゴマーク等、提案者が特定できる図柄は入れないでください。
- 4 企画提案説明書は、専門的な知識を有しない者でも理解できるよう、わかりやすい表現としてください。
- 5 企画提案の内容については、他からの転載を禁止します。
- 6 提出する企画提案書 11 部のうち、1 ページ目の社名は 1 部にのみ記入し、残り 10 部には記入しないでください。
- 7 提案内容は、全て企画提案書に記載してください。別添となるパンフレットや補充資料、図面等については受理しません。また、提出された企画提案書は返却しません。
- 8 提出された企画提案書の全部又は一部について、変更、追加及び削除はできません。

第 15 総合評価審査委員会 (ヒアリング) の実施

- 1 参加者として選定した者から、総合評価審査委員会においてヒアリングを行う。
- 2 ヒアリングの日時、場所、留意事項等は別途通知する。
- 3 ヒアリングは、企画提案書に記載された内容についてのみ行うこととし、当該提案書に記載されていない事項の説明や追加資料の配付は認めない。

第 16 その他

- 1 公募手続において使用する言語、通貨
日本語、日本円
- 2 本企画提案に係る説明会は実施しない。質問がある場合は、企画提案書等の提出期限の日まで受け付けるものとする。
- 3 参加資格審査申請書及び企画提案書の作成及び提出に係る費用は、提案者の負担とする。
- 4 企画提案の採否については、文書で通知する。
- 5 参加資格審査申請書の提出後、提出期限までに企画提案書を提出しない場合は、参加資格審査申請の撤回があったものとみなす。

また、総合評価審査委員会（ヒアリング）に参加しない場合は、企画提案の意思がないものとみなす。

- 6 全ての提出書類は返却しない。また、提出された参加資格審査申請書又は企画提案書は、委託事業者の選定のために用い、機密保持には十分配慮する。

ただし、北海道情報公開条例による公文書開示請求がなされた場合は、不開示情報（個人情報、法人の正当な利益を害する情報等）を除いて、情報公開の対象となるので、留意すること。

- 7 提出された書類は、必要に応じ、北海道において、複製することがあるので、留意すること。
8 提出期限以降における参加資格審査申請書又は企画提案書の差替え又は再提出は認めない。
9 採択決定後、提出された提案書及び補足資料並びに契約書類に記載された事業概要（図・写真を含む）、委託先・コンソーシアム構成員の名称、契約金額（支出内訳を含む。）については、公表・活用する場合があるので、当該部分の公表・活用については、あらかじめ提案者の了解を得たものとして取り扱うものとする。

第 17 問い合わせ先及び参加資格審査申請書、企画提案書等の提出先
北海道経済部労働政策局雇用労政課働き方改革推進室就業環境係 広瀬
〒060-8588 札幌市中央区北 3 条西 6 丁目（本庁舎 9 階）
TEL : 011-231-4111（内線 26-468）
FAX : 011-232-1038